

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社サロット		
事業所名	グループホーム さくら・ひまわり		
所在地	尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	平成23年6月27日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do">http://www.kaigo-kouhyou-aichi.jp/kaigosip/Top.do</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 ケア・ウィル		
所在地	愛知県名古屋市中村区椿町21-2 第2太閤ビルディング9階		
訪問調査日	平成23年1月13日	評価確定日	平成23年2月15日

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節にあった行事を企画(夏祭り・運動会など)し、生活の中に楽しみを見つけていただくように支援している。日常生活の中で散歩、外出、おやつ作り、習字、体操などの活動をもうけている。手洗いのタオルは1枚づつ使い、使い回しをしない。衛生面の対応に気を付けている。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは平屋の木造建築で2ユニットである。ユニットの間には広いウッドテラスがあり、そこで夏祭りや運動会等を家族を交えて一緒に楽しんでいる。ホーム前の道端の草を刈り、入居者と一緒に花を植え水やりをしていると近所の方から「お花がきれいね」と声をかけてもらい、会話をする機会が増えつつある。愛犬「はな」は入居者の癒しになっており、今年の猛暑の時でも愛犬のおかげで毎日の散歩を絶やすことなく、時間帯を考えて行っている。運営推進会議では、出席者からグループホームの人員基準について質問があり、分かりやすいよう資料を作成し説明している。次回は認定調査について話し合う予定である。職員全員で11月からブログを開設した。ホームでの出来事をできるだけ早く家族に伝えたいという思いで、個人情報に対しても配慮している。様々な方の意見等が書込みできるようになっている。家族と今以上に密な関係を築き、入居者と家族との関係を大切にしていきたいと考えている。

. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します			
項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を 掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求め ていることをよく聴いており、信頼関係ができてい る (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面が ある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域 の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係 者とのつながりが広がり深まり、事業所の理 解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表 情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足 していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく 過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにお おおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な 支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

(セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」となっている。利用者様の笑顔がみられるよう心がけている。スタッフが自然な笑顔で対応できることは利用者様の笑顔につながっていると考えている。	理念は「この街で自然に暮らし、笑顔が見られる介護」を掲げている。居間には、入居者も職員も笑顔になるように「笑顔」の額が掲示されている。毎朝の会議では管理者が自然と笑顔になり気持ちよく過ごせるように職員に話し、理念を共有して実践につなげるよう努めている。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の副会長を務めたこともあり、年数回ある町内のゴミ拾い活動への参加も欠かしていない。町内の保育園児との交流もある。	自治会に加入し、春と秋の大掃除には職員が参加した。ホームの前の掃除は入居者も参加している。犬の散歩をしながら入居者と一緒に回覧板を届けたり、地域の保育園の敬老会、運動会に招待を受け交流を図っている。ホームの前の道端に花を植えていると近所の人が声をかけてくれる。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献に至ることは行っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている。参加できなかった利用者様のご家族には、いつでも閲覧できるように議事録が置いてある。	4月に平成22年度年間行事予定を配布し、運営推進会議は偶数月の第3日曜日14時からと決めている。参加者は各ユニットから5家族、市役所、ボランティアの方である。充実した話し合いが行われ、家族の方からの意見や質問が次回の議題になっている。11月はブログ開設について説明すると、家族から反響があり、今後のサービスの質の向上に期待している。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回の市内事業所連絡会で他事業所や市の職員と連携を取っている。	月1回の市内事業所連絡会に参加し、新たな情報や改善を聞いたり、事業所の実情も伝え協力関係を築こうと努めている。市主催の夏祭りや市民展覧会等には入居者と一緒に見学に行っている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は行っている。しかし玄関の施錠については、玄関がスタッフの目の届かないところにあるため利用者様の安全のためやむを得ず施錠している。	「身体拘束、排除宣言」を掲げている。職員一同で身体拘束について行動制限をせずに、入居者がどうしてそのような行動を取るのかについて話し合い、「ダメ」という否定的な言葉を使用せず、その状況にあわせて入居者を理解し、支援の方法を考えるように研修を行っている。玄関は施錠をしているが入居者の状態には配慮している。	身体拘束について研修を行っており、施錠をしている時の弊害は理解しているので、今後は自由な暮らしを支援するための工夫を職員で話し合い、施錠が常態化しないよう取り組みに期待したい。
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待の研修も行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修が行われた。実際に利用していらっしゃる方もみえる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時十分に説明するように心がけ、不安な点や疑問についてはその都度話し合いを行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者様やご家族の要望や意見については十分に話し合い理解を持って配慮している。	入居者や家族からの意見、要望等については、夏祭りや忘年会、クリスマス会などの行事に家族が参加した時や、随時訪問した時、外部評価のアンケート等で機会を設け話し合っている。運営推進会議で説明するなど、運営に反映するよう努めている。	
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	スタッフミーティングや会議を定期的に関き、十分に意見を聞き話し合う。	会議や月1回のさくら・ひまわり会の時に、職員の意見や提案を聞く機会があり、意見等は反映されている。職員の希望休や異動も本人に確認して行っている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	管理者は職員の状況を把握し各自が向上心を持って働けるよう努めている。研修にも前向きである。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月に1回研修会が設けられている。又は外部研修を受けられる。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者会に参加し、他事業所との連携を作っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりは何もわからず大変不安だと思うので、スタッフはきめ細やかに気配りをし本人の言葉に耳を傾けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	なるべくご家族に来所して頂きご意見やご要望を聞くようにしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望に応えられるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	できることはなるべくスタッフの見守りの中でやっていただき スタッフがわからないところを教えて頂き 共に支え合って生活している。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族ができることはなるべく(可能な場合)ご家族からしていただけるよう連絡を密にする。ご相談できることはさせていただきよう努めている。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご本人のお家へお連れしたり、自宅の近くを歩いて景色を見て思い出していただく。ご近所の方からのお声かけをお願いする、等に努めている。	入居者が自宅に帰宅したいという思いが強く、家族と相談して自宅の鍵を預かり、職員が時々入居者の要望に応じて帰宅し、近所の人とも関係が途切れないように支援している。入居者が友人に手紙を出しに、近くのポストまで職員と一緒に出かけている。	
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	耳の遠い方が孤立しやすいので、その方が自己表現できる場をたまに演出する(会の挨拶・歌を歌っていただく等)。グループ活動に参加していただきコミュニケーションを取りやすくする。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された場合は面会に行ったり、入院されたときはお見舞いに行き、ご本人ご家族とも良い関係が保てるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	服の好みや好きなテレビ、好きな飲み物などを把握し、タイミング良くその意向に沿うよう努力している。	入居者の思いや希望、意向等はシートに生活歴、入居者ができること、できないこと、一番嬉しいことは何か、ショックが大きかったこと等を記入し、その人らしい暮らしを続けるように配慮している。仕事の好きな入居者には、生活歴に合わせてホームで役割を持ってもらい、無理のないよう行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの介護サービスからの申し送りノート等を読む、ご家族様からこれまでの暮らしについて聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	暮らしの中で出来ることや役割を持っていただき、スタッフがお礼の言葉を忘れずにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を伺いそれに沿っての介護計画を作成している。	計画は定期的に6カ月毎に見直している。職員は担当制であり、入居者に変化があった場合は担当職員と計画作成担当で話し合い、様子を観察しながら、看護師や家族とも相談して変更している。ケア会議は入居者の状況に応じて行い、介護計画に反映されている。	
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で利用者様の様子を記録している。毎日の24時間の記録を付け、利用者様との関わりや日々の様子などを振り返ったり情報の共有することに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況が変化したときにそれまでの介護にとらわれず新しい目線で介護を行うように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な方は訪問マッサージや訪問理容など利用されている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のなじみの病院へご家族が連れて行けない方にはスタッフが付き添っている。	往診は月2回行われている。かかりつけ医のある入居者は家族が対応したり、身寄りのない人などは管理者が付き添い病院に受診している。また、歯科、眼科等も状況に合わせて支援している。受診情報は個人記録に残し、会議で職員全員に伝え共有している。	
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であることが介護職員にとっては心強い。すぐ相談できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間はなるべく短い方がいいと思うので、ホームで対応できるようスタッフや病院関係者と話し合い、受け入れるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性があるときにご家族様と相談して対応している。	入居時に重度化対応に関する指針について説明している。自力での入浴が困難になった場合を目安としている。今まで看取りの経験はないが、家族と一緒に看取りたいという強い希望がある場合には、相談して対応していく準備はある。	
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを読み、急変時の対応について各スタッフが心がけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をしている。	年2回入居者と共に避難訓練を行っている。避難経路の確認や消火器を実際に扱い訓練を行っている。自力で歩ける入居者には、声をかけ一緒に避難経路を歩く訓練をしている。	夜間を想定し具体的な誘導方法を決めておくことを期待したい。また、備蓄品の準備についても検討されることを期待したい。
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の声かけの仕方に注意し、リビング近くのトイレの場合、大きな声は控える。また、プライドを傷つけないように声かけしている。	居室に入る時はノックをする、また、入室して援助する時には必ず戸を閉める等、プライバシーの保護に努めている。入居時に家族と相談し、本人の馴染みのある呼び方で名前を呼んでいる。居室内の管理を行う時には、入居者が入室しても気を悪くしない時間帯を選び、疑われるような行動はとらないようにしている。	
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の好みの服装や、寒がり・暑がりなどの嗜好や趣味などを把握し 援助している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに応じて、どのタイミングで食事の声かけをするか、等のポイントを決めて声かけしている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	更衣準備の時にその人らしいセンスになるようバランスを考える。また男性にはひげ剃りの支援、声かけも行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者様に出来ることは食事作りでも出来る限りしていただく。作ることが楽しくなるような会話をしながら楽しんで作っていただく。	看護師である管理者が、栄養士の立てた献立を利用し、アレンジして立てている。調理や盛り付け、片付け等は、入居者と職員が共に行っている。食事の前には嚥下体操を行っており、食事中は懐かしい音楽が流れ楽しく食事ができる雰囲気になっている。	
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	栄養についてはメニューの作成は栄養士のチェックを受けており、バランスの取れた献立になるよう考えている。水分摂取は少なめの方が多く、嗜好を考えているいろいろな形で摂取していただいている。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを勧めている。出来ない方には介助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレでの排泄を心がけている。排泄のタイミングを記録に残して援助している。	個々の排泄のタイミングを記録に残し、トイレで排泄できるように努めている。トイレ内には絵画が飾ってあり、リラックスでき、職員がゆったり介助できるスペースもある。紙パンツを使用していた人が、ボクサーパンツを利用し布パンツに変わった人もいる。	
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を元に水分補給やマッサージ、食物繊維の多い物・ヨーグルトの摂取を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人一人、ゆっくり入浴できるように配慮している。	1日おきに入浴している。状況に合わせて毎日入浴している人もいる。体調不良で入浴できない日は更衣を行ない清潔を保っている。月の16日は「体重測定の日」とし、増減のグラフをつけ健康管理に役立っている。季節に応じ菖蒲、ゆずなどを入れ入浴を楽しんでいる。	
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるものの、それにこだわらず、眠れない人にはテレビなど見てもらったり、スタッフと過ごすようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	すたっふの見守りの中で服薬していただいている。薬袋には薬の名前・何の薬かが明記されている。利用者様の病気がわかる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	喫煙場所を設け、たばこを吸うことを楽しみにされている方、お散歩が大好きな方はほぼ毎日お散歩に行く、入浴が好きな方などの支援をしている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は買い物・散歩、季節毎の行事に外出している。近くの保育園の運動会に行った。	天気の良い日はホームの一員である愛犬と共に散歩したり、市民祭、保育園の運動会の見学等に積極的に外出している。不穏になると「自宅に帰りたい」と要望がある場合も対応し、本人の納得いくよう外出支援を行っている。季節毎に初詣、カラオケ、花火見物、花見等に出かけている。	
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方にはそれを使って買い物をしていただいている。基本はホームでお小遣いを預かっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方と便せんた切手を買いに仕掛ける支援をしたりご家族に連絡を取ったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	シンプルな共用空間で音は反響しない落ち着いた場である。季節毎に壁に四季を感じるものを飾っている。玄関にも季節の壁飾りを飾っている。	玄関からフロアの壁にはオーナーの描いた絵画が飾られている。季節を感じられるような壁飾り、入居者の作品などが飾られ、木の香りのする落ち着いた空間である。2ユニットの間に広いデッキがあり、運動会を開いたり季節の魚を焼いたりする等、楽しい時間を過ごすことができる。	
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	テレビの前にソファがあり思い思いに座っていただける。居間の奥に和室があり、そこに腰掛けて犬をなでたりしている。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	畳を入れたり、ベットを入れたり、ご本人の好みや週間出来るだけ取り入れている。	使い慣れた家具、じゅうたん、たたみを持ち込み、思い思いの空間を楽しんでいる。布団は順番に干し、シーツ交換も定期的に行い清潔感がある。部屋には自分の作品や家族の写真等を飾り、自宅にいるように落ち着いて過ごせる工夫がされている。	
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	平屋作りで暮らしやすい。 夜間トイレは電気を消さない。		

## 1 自己評価及び外部評価結果

### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2374500516		
法人名	有限会社サロット		
事業所名	グループホームさくら・ひまわり		
所在地	尾張旭市柏井町公園通573-1		
自己評価作成日	平成22年12月24日	評価結果市町村受理日	

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節にあった行事を企画(夏祭り・運動会など)し、生活の中に楽しみを見つけていただくように支援している。 日常生活の中で散歩、外出、おやつ作り、習字、体操などの活動をもうけている。 手洗いのタオルは1枚づつ使い、使い回しをしない。衛生面の対応に気を付けている。
---

### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

### ・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らさせている (参考項目:28)		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Alt+)- + (Enter+)-です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>理念に基づく運営</b>					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	ホームの理念は「この街で自然に暮らし、笑顔の見られる介護」となっている。利用者様の笑顔がみられるよう心がけている。スタッフが自然な笑顔で対応できることは利用者様の笑顔につながっていると考えている。		
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	管理者が自治会の副会長を務めたこともあり、年数回ある町内のゴミ拾い活動への参加も欠かしていない。買い物など積極的に外出するようにしている。		
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域貢献に至ることは行っていない。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている。参加できなかった利用者様のご家族には、いつでも閲覧できるように議事録が置いてある。		
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月一回の市内事業所連絡会で他事業所や市の職員と連携を取っている。		
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の研修は行っている。しかし玄関の施錠については、玄関がスタッフの目の届かないところにあるため利用者様の安全のためやむを得ず施錠している。それ以外は夜間以外施錠していない。		
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	何が虐待にあたるか等を研修時に話し合い、虐待防止に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	研修が行われた。実際に利用していらっしゃる方もみえる。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時充分に説明するように心がけ、不安な点や疑問についてはその都度話し合いを行っている。		
10	(6)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議の時のみならず、普段の訪問時などでも積極的に意見要望を聞き、それを運営、日々の業務に反映させている。		
11	(7)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のスタッフ会議や毎朝の朝礼で意見や提案を出し、運営に反映させている。		
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度などで仕事内容の向上に伴う条件の向上に努めている。		
13		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部の研修や資格試験への参加を協力的に促し、職員の技量向上に努めている。		
14		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	サービス事業者会に参加し、他事業所との連携を作っている。		
<b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりは何もわからず大変不安だと思うので、スタッフはきめ細やかに心配りをし本人の言葉に耳を傾けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	本人の状況、家族の現状などを伺い、サービス内容・日々の具体的な生活の状況などを説明し、良い関係を築く努力をしている。		
17		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人やご家族の要望に応えられるようにしている。		
18		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	生活の主体がご本人であり、スタッフは支える存在であると自覚するようにしている。		
19		本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族は本人にとって第一の存在であり、その関係を常に保ってられるよう努める。		
20	(8)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様の家などにも積極的に出かけ、現在の様子などを本人が把握できるように努める。		
21		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者様同士の相性などを把握し、利用者様同士がなるべく良い関係が築けるよう促している。		
22		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他施設に転居された場合は面会に行ったり、入院されたときはお見舞いに行き、ご本人ご家族とも良い関係が保てるようにしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	服の好みや好きなテレビ、好きな飲み物などを把握し、タイミング良くその意向に沿うよう努力している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの介護サービスからの申し送りノート等を読む、ご家族様からこれまでの暮らしについて聞き取りを行っている。		
25		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居時の各資料を共有し、生活歴などを把握するようにしている。		
26	(10)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人やご家族の要望を伺いそれに沿っての介護計画を作成している。		
27		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	スタッフ全員で利用者様の様子を記録している。毎日の24時間の記録を付け、利用者様との関わりや日々の様子などを振り返ったり情報の共有することに努めている。		
28		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用者様の状況が変化したときにそれまでの介護にとらわれず新しい目線で介護を行うように努めている。		
29		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	必要な方は訪問マッサージや訪問理容など利用されている。		
30	(11)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様のなじみの病院へご家族が連れて行けない方にはスタッフが付き添っている。		
31		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	管理者が看護師であることが介護職員にとっては心強い。すぐ相談できる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院期間はなるべく短い方がいいと思うので、ホームで対応できるようスタッフや病院関係者と話し合い、受け入れるようにしている。		
33	(12)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	必要性があるときにご家族様と相談して対応している。		
34		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを読み、急変時の対応について各スタッフが心がけている。		
35	(13)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回防災訓練をしている。		
<b>その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	トイレ介助の声かけの仕方に注意し、リビング近くのトイレの場合、大きな声は控える。また、プライドを傷つけないように声かけしている。		
37		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様の好みの服装や、寒がり・暑がりなどの嗜好や趣味などを把握し 援助している。		
38		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者様のペースに合わせ食事時間をずらしたり状況に応じて各々の希望に添えるように努めている。		
39		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	同じ服を着ないようにタンスを整理したり、一緒に洋服を選ぶようにしている。なじみの美容院に行く方もいらっしゃる。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	(15)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	曜日毎に利用者様の食事作り当番が決まっている。何らかの形で参加されるようにしている。一緒に食事を食べ、食器洗いや片付けもしていただいている。		
41		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食一緒に食べて食事量を把握しケース記録に記入している。その人に合わせたペースでゆっくり食べてもらえるよう声かけしたり介助している。		
42		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後歯磨きを勧めている。本人の出来るところまでしていただきその後仕上げを介助している。		
43	(16)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを使用して排泄時間のパターンを把握し、その時間にトイレの声かけや誘導をしてトイレでの排泄が出来るようにしている。		
44		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便記録を元に 水分補給やマッサージ、食物繊維の多い物・ヨーグルトの摂取を心がけている。		
45	(17)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴はリラックスできる場所なので 一人ひとりのタイミングで順番を決めず入浴している。週3～5回入浴している。		
46		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間はあるものの、それにこだわらず、眠れない人にはテレビなど見てもらったり、スタッフと過ごすようにしている。		
47		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	スタッフの見守りの中で服薬していただいている。一人ひとりの薬の内容を理解し、飲んだ後は薬袋を裏返しチェックしたりしている。薬の変更時は申し送りをしっかりして経過観察している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除好きな方にはいつでも出来るようにモップを出してもらえる。たばこはライターはスタッフが管理しているが喫煙場所で楽しまれている。		
49	(18)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物は近くに行ってる。ご家族と墓参りにも行かれている。遠足もその人の懐かしい場所に出かけるようにした。		
50		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	財布を持っている方にはそれを使って買い物をしている。基本はホームでお小遣いを預かっている。		
51		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	手紙を書く方と便せんた切手を買いに仕掛ける支援をしたりご家族に連絡を取ったりしている。		
52	(19)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	台所はオープンで大きいカウンターで料理を作るお手伝いしたところを見ていただける。朝と昼には換気をし、空気を入れ換え温度を体感される。		
53		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食卓は席を配慮し、気の合う人同士になるようにしている。テレビの近くにソファがある。		
54	(20)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自宅で使っていた寝具を持ってきていただいたりタンズやなじみのある置物をもってきていらっしゃる方もみえる。		
55		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	手ふきタオルを取り出しやすいように配置している。		

(別紙4(2))

事業所名: グループホームさくら・ひまわり

作成日: 平成23年6月1日

## 目標達成計画

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。  
目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先順位	項目番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	2	地域住民との交流が少ない。	日常的な交流が持てる。	ホームでの活動に興味を持っていただけるような掲示物を設置する。	12ヶ月
2					ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月
6					ヶ月

注) 項目の欄については、自己評価項目の を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。